



筑波大学

University of Tsukuba

筑波大学体育系紀要

第 39 卷

The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences

Vol.39

「筑波大学体育系紀要」寄稿規定

(平成 25 年 11 月 21 日)

(平成 27 年 8 月 4 日補足)

(平成 28 年 3 月 10 日部分改訂)

平成 27 年度体育系紀要・研究業績集編集委員会

I 規定 (和文および欧文)

1. 筆頭著者

本誌に寄稿できる論文の筆頭著者は、本学に属する以下の身分の者である。

- (a) 体育系の教員 (特任助教を含む)、研究員
- (b) 体育系教員の指導を受けている人間総合科学研究科在籍の博士後期課程大学院生
- (c) 体育系教員の指導を受けた博士後期課程修了者または単位取得退学した者
- (d) その他紀要・研究業績集編集委員会が認めた者

2. 寄稿内容

寄稿内容は、体育系関連分野における総説、原著論文、実践研究、研究資料、特集、報告、その他とし、完結したものに限り (後述の (付記) 参照)。

3. 論文の採択

論文の採択は、紀要・研究業績集編集委員会において決定する。総説、原著論文、実践研究、および研究資料の審査にあたっては、紀要・研究業績集編集委員会が原則として本学体育系の 2 名の教員に査読を依頼する。なお、専門領域上、適切な査読者がいないと判断された場合には、外部者に査読を依頼することができる。

4. 寄稿の依頼

総説、特集、報告に関しては、紀要・研究業績集編集委員会が寄稿を依頼することができる。依頼論文には査読を行わない。

5. 発行回数

本誌の発行回数は、原則として年 1 回とする。寄稿論文の提出時期および発行時期は、紀要・研究業績集編集委員会において決定する。

6. 著作権

本誌に掲載される著作物の著作権は、掲載にあたり体育系紀要・研究業績集編集委員会に帰属することを前提とする。掲載された論文は電子化され、筑波大学付属図書館の運営する電子ジャーナルおよびつくりポジトリ等で保管され、公開される。

7. 投稿方法

投稿は、以下のいずれかの方法で行う。

a. 体育系紀要・研究業績集編集委員会に直接あるいは郵送による提出

寄稿論文は Microsoft Word を使用して作成すること。和文では明朝体、欧文では times あるいは century のフォントを使用し、文字の大きさは 12 ポイントとする。ダブルスペースで 1 ページあたり 18～20 行とし、ページ番号を付すこと。和文では、「、」と「。」を使用すること。

・ 題目、要約 (Abstract)、本文の投稿印刷ページの分け方について

a) 最初のページ

以下の 6 項目に関する情報を記すこと。

1. 寄稿内容の種別 (総説、原著論文、実践研究、研究資料、特集、報告、その他)
2. 分冊希望の有無および冊数
3. 題目 (和文および欧文)
4. 著者名 (和文およびローマ字)
5. 本学体育系外の著者の所属機関名 (和文および欧文)
6. 代表者の連絡先 (氏名、所属、住所、メールアドレス)

ただし、本文が欧文の場合には、題目、著者名、所属機関に関して、和文による記載は必要ない。

b) 2 ページ目

1. 原著論文、実践研究、研究資料の場合

本文が和文あるいは欧文のいずれの場合でも、欧文で 200～250words の Abstract を記す (和文による「要約」は不要) とともに欧文で 3～5 語のキーワードを記す。

2. 総説、特集、報告の場合

本文が和文の場合には 400 字程度の要約、欧文の場合には 200～250words の Abstract を記す。

3. 「その他」の場合

要約、Abstract は不要。

c) 3 ページ目以降

本文は 3 ページ目から開始する。本文中に各図表の挿入箇所を <図 1 >、<table1> のように示すこと。ただし、製版時には、ページ編成の体裁上、必ずしもその位置に図表が挿入されるとは限らず、その近傍になることがある。

・ 提出物及びその形態

提出物は、寄稿論文原稿を電子ファイル化して CD-R1 枚に記録したものと及びそれを A4 版用紙に印刷したもの (オリジナル 1 部、コピー 3 部) である。

a) CD-R

CD-R1 枚に、Microsoft Word を使用して作成した題目、要約 (Abstract) および図表を除いた本文をひとつのファイルとして保存する。このファイル名は、「筆頭著者名 (英文) 提出日」とする。(例: Taro_Yamada20160829)、図表に関しては、各図、表ごとに、以下の指示に従い、別のファイルとして保存する。図のキャプションについては、すべての図のキャプションをまとめたファイルも作成する。

1. 図 (写真) について (原則としてモノクロ印刷)

GIF あるいは JPEG のファイル形式で作成し (解像度は原則として 300dpi (dot per inch) 以上とする)、「図 1」、「図 2」

あるいは"fig1"、"fig2-a"、"fig2-b"のように図番号がわかるファイル名とした上で、本文を記録したCD-Rに共に記録する。図のキャプションは、Microsoft Wordを使用してまとめて1つのファイルとして作成し、"figcaptions"のファイル名で同様にCD-Rに記録する。

2. 表について

Microsoft Wordを使用してキャプションも含めて作成し、"表1"、"表2"あるいは"table1"、"table2"のように表番号がわかるファイル名とした上で、本文を記録したCD-Rに共に記録する。

b) 論文原稿のプリントアウト

CD-Rに記録した上記寄稿論文の原稿ファイル（図表も含めた完全版）をA4版用紙に印刷したもの（オリジナル1部、コピー3部）を提出する。

b. 電子メールの添付ファイルによる提出

寄稿論文はMicrosoft Wordを使用して作成すること。和文では明朝体、欧文ではtimesあるいはcenturyのフォントを使用し、文字の大きさは12ポイントとする。ダブルスペースで1ページあたり18～20行とし、ページ番号を付すこと。和文では、「、」と「。」を使用すること。

・ 題目、要約（Abstract）、本文の投稿印刷ページの分け方について

a) 最初のページ

以下の6項目に関する情報を記すこと。

1. 寄稿内容の種別（総説、原著論文、実践研究、研究資料、特集、報告、その他）
2. 分冊希望の有無および冊数
3. 題目（和文および欧文）
4. 著者名（和文およびローマ字）
5. 本学体育系外の著者の所属機関名（和文および欧文）
6. 代表者の連絡先（氏名、所属、住所、メールアドレス）

ただし、本文が欧文の場合には、題目、著者名、所属機関に関して、和文による記載は必要ない。

b) 2ページ目

1. 原著論文、実践研究、研究資料の場合

本文が和文あるいは欧文のいずれの場合でも、欧文で200～250wordsのAbstractを記す（和文による「要約」は不要）とともに欧文で3～5語のキーワードを記す。

2. 総説、特集、報告の場合

本文が和文の場合には400字程度の要約、欧文の場合には200～250wordsのAbstractを記す。

3. 「その他」の場合

要約、Abstractは不要。

c) 3ページ目以降

本文は3ページ目から開始する。本文中に各図表の挿入箇所を<図1>、<table1>のように示すこと。ただし、製版時には、ページ編成の体裁上、必ずしもその位置に図表が挿入されるとは限らず、その近傍になることがある。

・ 提出物及びその形態

提出物は、寄稿論文原稿を下記の指示に従って電子ファイル化したもので、これを以下の編集委員会のメールアドレス宛に添付ファイルとして送付する。

論文原稿提出先電子メールアドレス：henshuu@taiiku.tsukuba.ac.jp

（紀要・研究業績集編集委員会宛）

添付ファイルの内容

a) Microsoft Wordを使用して作成した題目、要約（Abstract）および図表を除いた本文を保存したファイル

ファイル名は、「筆頭著者名（英文）提出日」とする。（例：Taro_Yamada20160829）。

b) 図表のファイル

図表に関しては、各図、表ごとに、以下の指示に従い、別のファイルとして保存したものを送付する。なお、図のキャプションについては、すべての図のキャプションをまとめたファイルも作成して送付する。

1. 図（写真）について（原則としてモノクロ印刷）

GIFあるいはJPEGのファイル形式で作成し（解像度は原則として300dpi（dot per inch）以上とする）、"図1"、"図2"あるいは"fig1"、"fig2-a"、"fig2-b"のように図番号がわかるファイル名とする。図のキャプションは、Microsoft Wordを使用してまとめて1つのファイルとして作成し、ファイル名は"figcaptions"とする。

2. 表について

Microsoft Wordを使用してキャプションも含めて作成し、"表1"、"表2"あるいは"table1"、"table2"のように表番号がわかるファイル名とする。

8. 原稿枚数の制限

原稿枚数は、1編につき図表も含めて刷り上がり10ページ以内とする（和文文字数で図表を除き約18,000文字、欧文で図表を除き約6,000words）。ただし、研究資料に関しては、原則として枚数制限無しとする。

9. 引用文献

(1) 引用文献は、原則として著者名のアルファベット順に通し番号をつけ、本文の最後に一括する。

(2) 本文中での引用方法は、引用箇所の後に1,2,8,10-14)のように、該当する文献番号を肩字でつけることとする。

例1 ……という成績を報告している(1,3,10)。

例2 最近の縦断的研究成果5-7,9,12-15)によると……

例3 先行研究では、Jones5)や山田25)が、……

例4 『……』(Teipei et al., 2004 : p.54) 13)

例5 田中らが提唱しているように(田中他, 2010 : pp.251-253) 12)

(3) 引用文献の記載要領は原則として単行本の場合には、著者、西暦年号（カッコに入れる）、書名、発行人名、発行場所、ページ数（開始ページ～終了ページ）の順に、著者が複数で編集者がいる単行本やプロシーディングなどの場合には、著者名、題名に続けて、和文では、(編)の後に編集者名を、そして「」内に書名を、欧文では、(Ed.)の後に編集者名を、

そして (In) の後に書名を記載する。雑誌の場合には、著者名、西暦年号 (カッコに入れる)、題目、雑誌名、巻数、ページ数 (開始ページ-終了ページ) の順とする。著者名のイニシャル、雑誌略称の後には原則としてピリオドをつけない。

・単行本やプロシーディングの場合

例 1 奥田拓道 (1984) : 肥満. 化学同人, 京都, 22-29.

例 2 American College of Sports Medicine (1986) : Guidelines for Exercise Testing and Prescription. Lea & Febiger, Philadelphia, 53-71.

例 3 若林満 (1982) : 組織開発とキャリア開発. (編) 二村敏子ら「組織の中の人間行動」, 有斐堂, 東京, 318-333.

例 4 Atal BS (1989) : Speech coding and human speech perception. (Ed.) Elsendoorn BAG and Bouma H (In) Working Models of Human Perception. Academic Press, London, 101-125.

・雑誌論文の場合

例 1 松浦義行 (1990) : 中・高年期における体力低下傾向の検討. 筑波大学体育科学系紀要 13 : 195-205.

例 2 Taylor HL, Buskirk E, and Henschel A (1979) : Maximal oxygen intake as an objective measure of cardio-respiratory performance. J Appl Physiol 8 : 73-80.

・URL の場合

例 1 「文部科学省」ホームページ (2016.5.20) : 「現行学習指導要領・生きる力」. http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm

例 2 “United States Public Health Service” Homepage (2016.5.25) : “Health Information Management”. <http://www.usphs.gov/profession/healthservices/healthinformation/>

10. 「注」について

注をつける場合は、本文中のその箇所の右肩上に、注 1), 注 2) のように通し番号をつけ、本文の末尾と引用文献の間に一括して番号順に記載する。脚注にするか、本文中の段落間、あるいは章末に記載してもよい。

11. 欧文による投稿の場合の推奨事項

欧文で投稿する場合には、事前にネイティブスピーカーによる内容のチェックを受けることが望ましい。

12. 校正

印刷の校正は 2 回行い、初校は著者校正、第二校は紀要・研究業績集編集委員会が行う。

13. 別刷

別刷は、50 部までは紀要・研究業績集編集委員会の予算で負担し、それを越える分は、筆頭著者が負担する。

II (付記) 寄稿論文の種類 (「体育学研究」寄稿の手引きを改変)

1. 「総説」は、特定の研究領域に関する主要な文献内容の総覧、あるいは特定の領域で寄稿者が行った研究の概説・集大成などであるが、その記述は単なる羅列でなく、特定の視点に基づく体系的なまとまりを持つことが必要である。また、体育系関連諸分野における国内外の研究動向の紹介、評論、研究上の疑問や、あるいはこれまでの研究論文に対する批評や疑問を基にした重要な仮説・問題提起なども総説に含める。必ずしもその妥当性が検証されている必要はないが、十分に論理的であり、その仮説の組み入れによる研究・実践上の有効性、および追試等による立証の可能性が期待されるものであることが望まれる。論文の構成や見出し語は、内容に応じて適切なものを用いる。

なお、総説は、紀要・研究業績集編集委員会が寄稿を依頼することがある。この「依頼総説」には査読を行わない。

2. 「原著論文」は、科学論文としての内容と体裁を整えているもので、未発表のデータに基づき、新たな科学的な知見をもたらすものであることが必要である。論文の構成は、問題提起、目的、方法、結果、考察、結論、文献、欧文抄録の各部分から成り立っていることが必要である。ただし、人文系、社会系、自然系では論文構成に違いがあるので、論文の構成や見出し語はそれぞれの研究領域に応じて適切なものを用いる。

3. 「実践研究」は、体育系関連分野の実践現場からの貴重な情報をもとにした研究で、たとえば指導法に関する実用的研究や、スポーツ選手を事例的に分析した研究などが含まれる。論文の構成は、「原著論文」に準じる。

4. 「研究資料」は、調査や実験の結果を主体にした報告であり、客観的な資料として価値を認められるものである。この場合、2 の原著論文に必要な見出し語や、それに相当する内容のすべてを含む必要はないが、先行関連研究とのつながりのなかで、その資料を提供することの意味が明らかにされ、資料そのものの説明が十分になされていることが必要である。論文の構成は、「原著論文」に準じる。

5. 「特集」は、紀要・研究業績集編集委員会が適切と判断した特定の内容に関する寄稿を、本学体育系の教員 (特任助教を含む)、および紀要・研究業績集編集委員会が認めた者に依頼する。

6. 「報告」は、学内外における講演会等に関する報告および授業、実習、実験、調査に関する報告のほか、学内・体育系内からの研究助成 (河本体育科学奨励賞、栗原基金研究助成、学内プロジェクト、学系内プロジェクト) を受けた研究について、その内容を簡潔にとりまとめたものである。研究助成を受けたプロジェクトの研究代表者については、紀要・研究業績集編集委員会が寄稿を依頼する。

7. 「その他」は、体育系あるいはその関連分野における、提案、意見、体験談、エッセイ、情報の紹介などであるが、内容が紀要に適するかどうかについては編集委員会で検討する。

Submission Rules for the Bulletin of the faculty of Health and Sport Sciences

(Ver 1.0, 2013-11-21)
(revised Ver 1.5, 2016-3-10)

1. First author

The first author who can submit a paper should have either following status;

- (a) Faculty member (including Junior Assistant Professor) of the Faculty of Health and Sport Sciences, Researcher of the Faculty of Health and Sport Sciences
- (b) Graduate student of the doctoral program of the Graduate School of Comprehensive Human Sciences directed by a faculty member of the Faculty of Health and Sport Sciences
- (c) Postgraduate student of the doctoral program of the Graduate School of Comprehensive Human Sciences directed by a faculty member of the Faculty of Health and Sport Sciences or a student who completed this coursework without degree
- (d) A person who is permitted to submit a paper by the editorial board.

2. Type of paper accepted

The submitted paper should refer to the field of health and sport sciences and be classified as either a general commentary, an original article, a practical study, deal with research materials, a feature article, a report or other articles concerned with health or sport including a lecture content, an introductory essay of a teaching, a proposal, an opinion, a story of some experiences, some information, etc.. It must be complete.

3. Acceptance of the paper

Acceptance of the paper will be determined by the editorial board of the bulletin and research reports. A general commentary, an original article, a practical study and a research material will be peer reviewed by two faculty members of the Faculty of Health and Sport Sciences as requested by the editorial board. In case of a lack of an appropriate peer reviewer, the editorial board may request the assistance of researchers from other organizations.

4. Request for papers

The editorial board may occasionally request papers such as a general commentary, a feature article or a report. These requested papers will not be peer reviewed.

5. Numbers of issues

The bulletin is issued annually. The schedule for the submission of papers and the time of the publication of the issue will be decided by the editorial board.

6. Copyright

Copyright of the submitted material (paper) will belong to the editorial board, when it appears to the bulletin. The paper will be converted to electronic form and kept at the Tsukuba Repository of the University Library, which is open to the public.

7. Method for submission

For submission of a paper, there are two methods;

a. Direct mail submission to the editorial board

Papers should be prepared using Microsoft Word (2003 or newer). Either extension (.doc or .docx is acceptable). Character size is to be 12 points, use Times or Century fonts, double-spaced (18 to 20 lines per page). Be sure to add page numbers.

On the first page the following items are required.

1. Classification of the paper (a general commentary, an original article, a practical study, a research material, a feature article or a report)
2. Number of reprints (if any)
3. Title
4. Author(s) and their organization(s)
5. Contact address and the E-mail of the first author

On the second page the following items should be indicated.

1. Abstract in 200 to 250 words
2. Keywords (2-5 words)
3. Total number of figures and tables

The text begins from page 3.

Page 1, 2 and the text from page 3 on should be integrated into one 'Word' file with a filename of your given name, family name, and submission date (e. g. Peter_Jones05Aug2016) for identification. Each table, figure and its caption saved separately and their filename(s) should be "Table 1" or "Figure 1" and so on. Captions of the figures should be integrated into one file named "figcaptions".

These files should be loaded onto a CD-R. Four printed copies of the figures (A4 size) as well as the CD-R should be submitted.

Locations where tables or figures should be inserted should be noted with < marks, such as <Table 1> or <Figure 1>. In addition, please place the words "Figure x or Table x about here" to guide its placement for publishing.

b. E-mail submission to the editorial board with attached files

A "Word" file of page 1, 2 and the text with a filename of your given name, family name, and submission date (e. g. Peter_Jones05Aug2016), table files, figure files and a file of captions of figures should be submitted to the following editorial board mail address as attached files;

henshuu@taiiku.tsukuba.ac.jp

8. Page limitations

The paper, including tables and figures, should not exceed 10 pages in the printed bulletin. That means a text with ca. 6000 words. But there is no limitation with respect to research materials.

9. The References Cited style

(1) For the References Cited section the following examples should be followed.

American College of Sports Medicine (1986): Guidelines for Exercise Testing and Prescription. Lea & Febiger, Philadelphia, 53-71.

Atal BS (1989): Speech coding and human speech perception. (Ed.) Elsendoorn BAG and Bouma H (In) Working Models of Human Perception. Academic Press, London, 101-125.

Taylor HL, Buskirk E, and Henschel A (1979): Maximal oxygen intake as an objective measure of cardio-respiratory performance. J Appl Physiol 8 : 73-80.

“United States Public Health Service” Homepage (2016-5-25): “Health Information Management”. <http://www.usphs.gov/profession/healthservices/healthinformation/>

(2) References should be indicated in alphabetical order of the first author with numbers, and cited in the text with its number together with a right parenthesis, such as 5-7,9,12-15).

10. ‘Note’

‘Note’ should be indicated such as Note1) or Note2) in the text and its explanation should be written at the end of the text. These notes will be inserted at the bottom of each page in the printed bulletin.

12. Proofreading

Proofreading will be done twice. First proofreading will be made by the first author and the second proofreading will be done by the editorial board. Please carefully check your paper for errors prior to submission.

13. Reprints

Fifty reprints are free. Additional reprints will be charged to the first author.

平成 27 年度 筑波大学体育系紀要・業績集編集委員会

委員長 足立和隆
委員 久保大輔 齋藤卓 清水紀宏 武田文
辻本健彦 松畑尚子 三橋大輔 村上祐介

筑波大学体育系紀要 第 39 卷 2016 年

The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, Vol.39, 2016

2016 年 3 月 発行

発行者 筑波大学体育系 中川 昭
茨城県つくば市天王台 1-1-1 (〒305-8574)
NAKAGAWA Akira
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba
1-1, Tennodai 1 chome, Tsukuba-shi, Ibaraki-ken, 305-8574 Japan
印刷所 前田印刷株式会社筑波支店 茨城県つくば市山中152-4

CONTENTS

Materials

- Kendo: A Review of the Current International Status and the Possible Future Role in Sport for Development OHISHI Junko 1
- Differences of trust in high school teacher-coaches among judokas of different performance levels and in different schools. OKADA Hiroataka et al. 13

Reports

- Application of “sport skill certificate” and its evaluation (part 2)
– Verification of the “advanced” model – UCHIYAMA Haruki et al. 23

Institute Projects

- Structural Analysis of Forming Conditions and Ideal Image of “Backward uprise and salto forward piked to support” on the Parallel Bars SAITO Taku 35
- Effect of Gymnastics Program utilizing the Tool Characteristics of an Elasticized Rope MOTOYA Satoshi et al. 39
- Research report about historical materials of physical education at TODA Elementary School in Ichihara City, Chiba Prefecture LEE Chanwoo et al. 43
- Relationship between tangible and intangible legacies ARAMAKI Ai 47
- Relationships between lower-limb joint kinetics during the support phases of sprint running and rebound jumping KARIYAMA Yasushi 53
- Estimation of the fluid forces around a foot during eggbeater kicking TSUNOKAWA Takaaki 57
- A study on ideal way about dance lesson in teacher training courses A case study of “dance lesson of a university” PARK Kyungjin 61
- Dance education as the teacher training – About "Graduation dance performance" at Tsukuba University – TERAYAMA Yumi et al. 71
- A study on public-private partnerships between local governments and J-League clubs in local sport policy: analysis of Local Sport Promotion Plan KUSAKA Tomoaki et al. 75
- Mental and Physical Health of Participants in the Masters Ski Tournament: Correlation between Status of Activities and Psychosocial Factors YAMANE Maki et al. 81
- The Image toward Budo which the students attending Judo class on the common Physical Education course after the Translation from the Trimester System to the Semester System KIRYU Shusaku et al. 89
- Meanings attached to participation in an exercise class as identified in stories of earthquake victims: Examining cases of refugees who evacuated from Futaba, Fukushima Prefecture, to Tsukuba, Ibaraki Prefecture FURUYA Saeko et al. 93

筑波大学体育系紀要

第39巻

目次

【研究資料】

- ・ 国際開発における剣道の現状と可能性 大石純子 1
- ・ 高校柔道部員のコーチに対する信頼感の競技レベルによる違いと学校差 岡田弘隆、ほか 13

【報告】

- ・ 「実技検定」の運用とその評価（第2報）－「上級」モデルの検証－ 内山治樹、ほか 23

【プロジェクト報告】

- ・ 平行棒における<後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持>の成立条件と理想像に関する構造分析的研究 斎藤 卓 35
- ・ 伸縮（バンジー）ロープの用具特性を活用した体操試案 本谷 聡、ほか 39
- ・ 千葉県市原市戸田小学校の体育資料に関する調査報告 李 燦雨、ほか 43
- ・ 有形のレガシーと無形のレガシーの関係性に関する研究 荒牧亜衣 47
- ・ Relationships between lower-limb joint kinetics during the support phases of sprint running and rebound jumping KARIYAMA Yasushi 53
- ・ 水球選手の巻き足中に発揮される流体力の推定 角川隆明 57
- ・ 教員養成課程におけるダンス授業のあり方に関する一考察
－T大学の「ダンス実技」の授業を事例に－ 朴 京真 61
- ・ 教員養成としてのダンス教育について－「筑波大学卒業ダンス公演」の事例から－ 寺山由美、ほか 71
- ・ 地方スポーツ政策における地方自治体とJリーグクラブの官民パートナーシップに関する一考察
－地方スポーツ推進計画の分析を中心として－ 日下知明、ほか 75
- ・ Mental and Physical Health of Participants in the Masters Ski Tournament:
Correlation between Status of Activities and Psychosocial Factors YAMANE Maki、ほか 81
- ・ 2学期制移行後の共通体育柔道における大学生の武道に対するイメージ 桐生習作、ほか 89
- ・ 震災避難者の語りからみる体操教室参加の意味づけ
－福島県双葉町から茨城県つくば市への避難者の事例から－ 古屋朝映子、ほか 93